

水生生物調査 2022年 7月～12月

上瀬谷A地点・畑ビオトープ

月 日 時刻	7月19日(火)13:40		8月20日(土)14:10		9月17日(土)14:10		10月15日(土)14:00		11月19日(土)14:25		12月17日(土)14:10	
場所	A	TB		A	TB		A	TB		A	TB	
気温	27.3	25.8		30.0	25.8		29.8	26.6		26.4	22.9	
水温	21.9	23.6		21.9	25.6		22.7	25.7		18.4	18.7	
PH	7.0	7.1		6.9	7.1		7.0	7.1		6.8	7.0	
1 ヨコエビ	○			○			○			○		
2 ミズムシ(ダンゴムシ型)						○			○		○	
3 ミズムシ(ポート型)						○			○		○	
4 マツモムシ		○										
5 サホコカゲロウ						○						
6 カクツツビゲラ												
7 ユスリカ												
8 ガンボ										○		
9 アメンボ(シマ)	○	○		○	○		○	○		○		
10 プラナリア	○			○			○			○		
11 ミミズ												
12 イトミミズ												
13 ミジンコ												
14 ハイイロゲンゴロウ	○	○										
15 ガムシ	○											
16 ヤコ(シオカラ等)	○											
17 カワニナ	○	○		○			○	○		○	○	
18 シジミ(タンスイ)						○			○		○	
19 サカマキガイ												
20 モノアラガイ												
21 ドジョウ		○				○						
22 クロメダカ				○			○			○		
23 ヘイケボタル						○						
24 ヌマエビ	○	○		○	○		○	○		○	○	
25 ザリガニ	○			○			○			○		
26 サワガニ						○		○		(ツメ)		
27 オタマジャクシ	○											
28 カワモズク												
29 アオミドロ									○		○	
30 ヒル(チスイ)				○		○			○			
31 マメシジミ		○		○		○					○	
32 その他												
備考	A:水田に供給するため大量の水が流れ、流速も早い。そのためか、ミズムシのように速い流れに対応できない種は捕集されなかった。田んぼの土盛をしている業者が水路の掃除をやっているとのことだった。T: A地点近くの田んぼからハイイロゲンゴロウ5匹を移入した。上手く育って欲しい。	A:水路の砂利さららいがされ、濁りの無いきれいな水が勢いよく流れている。水路壁の植物も少なく、水生生物も少ない。TB: 7月30日に放流した20匹の「順環田メダカ」の内2匹の生存を確認できた。雌雄1匹ずつだけど、この後繁殖が可能なので期待したい。	A:稻の収穫準備として田んぼの水抜きが始まり、上流の水門が開けられたため、水流は殆どなくなった。ドジョウ、サワガニが久しぶりに観察できた。TB:クロメダカの幼体が15匹ほど観察できた。隠れ場所となるよう入れた植物より、中の島の草の根元がお気に入りのようだ。	A:前日までの降雨により水路の水は安定した流れであった。まとまった湧水出口の温度も水路の温度とほぼ等しく表面近くからの湧き水であることが窺えた。TB:クロメダカが2匹採集できた。放流した「順環田メダカ」であろう。寒い冬を生き延びて来春産卵して欲しい。	A:先月からまとまった降雨がなく、水量は少ない。アオミドロが水路壁面に付着し、それが水生生物の棲み処になつたり食べ物になっているようだ。TB:田んぼの補修工事により水面が低く水量が少なくなっているが、ビオトープ中央の深みに多くの水生生物が生息している。クロメダカも健在である。	A:台地からの湧き水により弱い流れが保たれている。以前観られたカワモズクは観察できなかつた。川底の表面の砂利の中からマメシジミが採集できた。T:今回もクロメダカが観察できた。生物種数が少なくなっている中、ヌマエビは数を増やし大きな個体が多く観察された。多様性が保たれるといいのだが。						